

ブルガリア語¹

菅井 健太

以下にアンケートの日本語とそれに対応するブルガリア語の訳文を示す。必要に応じて簡単な説明も加えた。

(1) もう帰ってもいいですよ。

Можете да се върнете.

can.pres.2.pl. smp. ref. return.pres.2.pl.

「～できる」を意味する *мога* と *да* 構文(*да*+動詞の現在形)で表す。動詞の不定形を持たない現代ブルガリア語では、それに代わりうるものとして *да* 構文が多用される²。ここでは *мога* だけでなく *да* 構文の動詞も、主語の人称と数にあわせて変化する。

また、この *да* は様々なモダリティー的意味を持っている助詞である。勧誘や命令など様々な意味を表すことができる。

(2) それを食べてはいけない。 / それを食べるな。

Недейте да го ядете.

don't.2.pl. smp. it eat.pres.2.pl.

Не го яжте.

not it eat.impr.2.pl.

Недейте яде.

don't.2.pl. eat.inf.

¹ ブルガリア語の翻訳に際して、ソフィア出身のブルガリア語母語話者である本学研究生 Христо Николов 氏と Златина Тошева 氏、及びソフィア大学の Райна Камберова 氏にご協力いただいた。記して感謝申し上げます。なお、いかなる間違いも筆者によるものであることをお断りしておく。

² 例えば、この *да* 構文はロシア語などで不定形が用いられるようなところで用いられることがある。例文(1)はその典型的な例である。

基本的に三通りの表現方法が可能である。недей(те)³+да 構文であらわすもの、それから ям 「食べる」の命令形であらわすもの、そして недей(те)+不定形の残存形⁴で表すものがある。ただし、不定形の残存形を用いる方法は、今回協力を得た母語話者からは古い表現であり、すでに会話などでは用いられないとの指摘があったことを付け加えておく。недей(те)単独でも、日本語の「ダメ」のような意味で用いられうる。

(3) 私たちはもう帰らなければならない。

Трябва да се върнем.
must.pres.3.sg. smp. ref. return.pres.1.pl.

上記(3)は、трябва と да 構文を用いた非人称文である。

(4) 傘を持って出かけたほうがいいよ。

Добре е да вземете чадъра, когато излезете.
good be.pres.3.sg. smp. take.pres.2.pl. umbrella+the when go-out.pres.2.pl.

Вземете си чадъра, когато излезете.
take.impr.2.pl. for-yourself umbrella+the when go-out.pres.2.pl.

推奨の意味は、前者のような言い方もできるが、後者のように単に命令法を用いることもできる。

(5) 歳をとったら、子供のいうことを聞くべきだ/ものだ。

Когато остареете, трябва да слушате децата си.
when get-old.pres.2.pl. must smp. listen.pres.2.pl. children+the own

上記(5)は、(3)と同様に трябва+да 構文で表される。

³ те をつけると二人称単数に対する丁寧な表現あるいは二人称複数に対する表現となるが、ない場合は単に二人称単数に対する表現となる。

⁴ 現代ブルガリア語では、動詞の不定形は失われている。しかし、かつての不定形の語幹が不定形の残存形として、否定命令における недей(те)との組み合わせにおいて用いられることがある。

(6) 何か食べたい。

Искам да ям нещо.
want.pres.1.sg. smp. eat.pres.1.sg. something

Яде ми се нещо.
eat.pres.3.sg. me.dat. ref. something

二通りの表現方法が可能である。前者は *искам* 「欲する」と *да* 構文で表される。後者はいわゆる非人称文で、意味上の主語は与格で表される。このとき、*искам* にあたる語がなくとも「～したい(気がする)」という意味合いを出すことができる。この時の *се* は非人称述語を形成するものである。その一方で、(1)や(3)で出てきている *се* は、動詞 *върна* 「返す」とセットで *върна се* 「帰る」という再帰動詞を形成するものである。

(7) 私が持ちましょう。

Ще го подържа.
will it hold-for-some-time.pres.1.sg.

Нека да го подържа.
let smp. it hold-for-some-time.pres.1.sg.

Нека го подържа.
let it hold-for-some-time.pres.1.sg.

Дай да го подържа.
allow.impr.2.sg. smp. it hold-for-some-time.pres.1.sg.

意志の意味は、単に未来時制を表す助詞の *ще* を用いて表すこともできるが、助詞の *нека* + *да* 構文、あるいは *нека* のみでも表すことができる。または、*нека* を用いずに、*дам* 「与える、許可する」の意味を持つ動詞を用いた表現も可能である。

(8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

Еми, хайде да обядваме заедно.
well let's smp. have-lunch.pres.1.pl. together

勧誘の意味は *да* 構文を用いて表すことができる。*хайде* という助詞は用いないで、*да* 構文

のみであっても勧誘の意味を表すことができる。

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか？

Не искате ли да обядваме заедно?
not want.pres.2.pl. Q smp. have-lunch.pres.1.pl. together

上記(9)のような場合は、否定疑問文が用いられる。

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。 / 明日は良い天気になってほしいなあ。

Би било добре утре да се оправи времето.
be.con.3.sg. be.aapp.n.sg. good tomorrow smp. ref. be-clear.pres.3.sg. weather+the

上記(10)のような場合は、条件法が用いられる。条件法は、be 動詞にあたる助動詞 **съм** の特別な形(人称と数に従い変化する)とアオリスト過去能動分詞とで作られる。

(11) すぐにそれを持って来なさい。

Донесете го веднага.
bring.impr.2.pl. it right-now

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？

Може ли да ми услужите с химикалката Ви за малко?
can.pres.3.sg. Q smp. me.dat. lend.pres.2.pl. with pen+the your for-a-while

Бихте ли ми услужили с химикалката Ви за малко?
be.con.2.pl. Q me.dat. lend.aapp.pl. with pen+the your for-a-while

二通りの表現方法が可能である。前者は許可を表すことができる **може** と **да** 構文を用いた非人称文である。後者は条件法を用いた表現である。

(13) あの人は中国語が読めます。 / あの人は中国語を読むことができます。

Той (може да) чете на китайски.
he can.pres.3.sg. smp. read.pres.3.sg. in Chinese

可能の意味は、基本的に「～できる」を意味する **мога** と **да** 構文を用いて表すことができる。ただし、この場合 **мога** を用いないで可能の意味合いを出すこともできる。

(14) 明かりが暗くて、ここになんて書いてあるのか、読めない。

Не мога да прочета написаното тук, защото е тъмно.
not can.pres.1.sg. smp. read.pres.1.sg. written+the here because is dark

上記(14)は、(13)と同様に мога を用いて表すことができるが、(13)と異なりこの場合は省略できない。

(15) 彼らはもう着いているはずだ。

Те би трябвало да са пристигнали.
they be.con.3.sg. must.aapp.n.sg. smp. be.pres.3.pl. arrive.aapp.pl.

前出の非人称動詞 трябва を条件法で用いて表すことができる。да 構文内は、助動詞 съм の現在形とアオリスト過去能動分詞で表されるペルフェクト(現在完了)となる。

(16) (彼は)今日はたぶん来ないだろう。

Навярно няма да дойде.
probably not-have.pres.3.sg. smp. come.pres.3.sg.

推量の意味は、副詞によって語彙的に表される。文頭の副詞のあとは直説法の未来時制である。未来の否定には非人称動詞 няма+да 構文が用いられる。

(17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

Щом все още не са дошли,
now-that still not be.pres.3.pl. come.aapp.pl.

сигурно колата им е повредила по пътя.
for-sure car+the their be.pres.3.sg. damage.aapp.f.sg. on-the-way

上記(17)でも、(16)と同様に副詞によって語彙的に表される。副詞のあとは直説法のペルフェクトで表されている。

(18) さあ、(昼間だからあの人は家に)いるかもしれないし、いないかもしれない。

Той може да е вкъщи, но може и да не е.
he can.pres.3.sg. smp. be.pres.3.sg. at-home but can.pres.3.sg. also smp. not is

可能性の意味は、(13)や(14)のように *мога* と *да* 構文を用いて表される。

(19) どうもあなたは熱があるようだ。

Струва ми се, че имате температура.
seem.pres.3.sg. me.dat. ref. that have.pres.2.pl. temperature

上記(19)のような意味は、*струва ми се* 「～のように思われる」を用いた非人称文によって表される。

(20) (天気予報によれば、)明日は雨が降るそうだ。

Според прогнозата за времето утре ще вали.
according-to forecast+the for weather+the tomorrow will rain.pres.3.sg.

(Според прогнозата за времето) Утре щяло да вали.
(According to the weather forecast) tomorrow want.aipp.n.sg. smp. rain.pres.3.sg.

「天気予報によれば」というコンテキストのもとでは、二通りの表現方法が可能である。前者は単に直説法の未来時制で表したものである。それに対して後者は、いわゆる伝聞法⁵の未来時制で表したものである。前者は話者の「明日雨が降る」という命題に対する態度はニュートラルであるが、後者は話者の態度が必ずしもニュートラルでなく、疑念などの意味が含まれることがある。伝聞法の未来時制は、*ща* 「欲する」のインペルフェクト過去能動分詞と *съм* 動詞の現在形(ただし三人称では用いず)及び *да* 構文で形成される。

(21) もしお金があったら、あの車を買うんだけどなあ。

Ако имам пари, бих си купил тази кола.
if have.pres.1.sg. money be.con.1.sg. for-myself buy.aapp.m.sg. this car

Ако имам пари, ще си купя тази кола.
if have.pres.1.sg. money will for-myself buy.pres.1.sg. this car

反実仮想は、前者のように条件法を用いて表すこともできるし、後者のように単に直説法で表すこともできる。現在の事態であれば、条件節内はいずれも直説法の現在時制で表さ

⁵ この法には様々な名称があるが、ここでは一般的に用いられている名称である伝聞法を用いた。

れる。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどりつけなかったでしょう。

Ако не ми бяхте казали,
 if not me.dat. were.pl. say.aapp.pl.
 не бих могъл да отида там.
 not be.con.1.sg. can.aapp.m.sg.smp. go.pres.1.sg. there

Ако не ми бяхте казали,
 if not me.dat. were.pl. say.aapp.pl.
 нямаше да мога да отида там.
 not-have.impf.3.sg. smp. can.pres.1.sg. smp. go.pres.1.sg. there

上記(22)も、(21)と同様に条件法で表すことも、直説法で表すこともできる。過去の事態である場合には、条件節内はいずれも直説法のプルスクワムペルフェクト(過去完了)で表される。また帰結節について、直説法で表されている後者の訳文の時制は過去未来で表される。これに対して前者の訳文について、条件法には時制がないため、帰結節からのみでは時制が判断できない。

(23) (あの人は)街へ行きたがっている。

(Той) Иска да отиде в града.
 he want.pres.3.sg. smp. go.pres.3.sg. to town+the

Отива му се в града.
 go.pres.3.sg. him.dat. ref. to town+the

主語が三人称であっても、(6)と同様の表現が可能である。

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

Нека да пийна.
 let smp. drink-a-little.pres.1.sg.

Нека пийна.
 let drink-a-little.pres.1.sg.

Дай да пийна.
allow.impr.2.sg. smp. drink-a-little.pres.1.sg.

一人称単数に対する命令は, нека + да 構文, または нека のみで表すことができる. 他にも, 「許可する」という意味も持つ дам の命令形を用いた表現も多用される.

(25) これはあの人に持っていかせろ/ 持って行かせよう.

Нека той да го донесе.
let he smp. it bring.pres.3.sg.

Нека той го донесе.
let he it bring.pres.3.sg.

Той да го донесе.
he smp. it bring.pres.3.sg.

三人称に対する命令は, 助詞の нека か да の片方を用いるだけでもあらわすことができるし, 最初の訳文のように両方を同時に用いても表すことができる.

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい.

После яжте бонбоните на масата.
later eat.impr.2.pl. sweets+the on table+the

ブルガリア語の命令形で遠未来と近未来の間で形が異なることはない.

(27) もっと早く来ればよかった.

Щеше да е по-добре, ако бях дошъл по-рано.
want.impf.3.sg. smp. be.pres.3.sg. better if was come.aapp.m.sg. earlier

Хубаво би било да бях дошъл по-рано.
good be.con.3.sg. be.aapp.n.sg. if was come.aapp.m.sg. earlier

上記(27)は, (22)と同様に二通りの表現方法が考えられる. 前者のように単に直説法を用いる場合と, 後者のように条件法を用いる場合が可能である. 直説法を用いた前者の例では時制は過去未来である.

(28) あなたも一緒に行ったら(どうですか)?

Защо не отидете заедно?
why not go.pres.2.pl. together

(29) オレがそんなこと知るか.

Зная ли го (това)?
know.pres.1.sg. Q it that

上記(29)のような疑問詞を用いない反語の意味は、疑問の助詞を用いた通常の疑問文の形で表すことができる。ここでは括弧内の товаは接語代名詞の го と重複して用いられる。

(30) これを料理したのは、お母さんだよな? - いいえ、私を作ったのよ.

Това майка ти ли го е приготвила?
this mother your Q it be.pres.3.sg. cook.aapp.f.sg.

Не, аз го приготвих.
no I it cook.aor.1.sg.

略語

aapp. = アオリスト過去能動分詞, aipp. = インペルフエクト過去能動分詞, aor. = アオリスト, con. = 条件法助動詞, f. = 女性, impf. = インペルフエクト, impr. = 命令法, inf. = 不定形の残存形, m. = 男性, n. = 中性, pl. = 複数, pres. = 現在, Q = 疑問の助詞, ref. = 再帰代名詞, sg. = 単数, smp. = 従属節形成のモダリティー的助詞(subordinating modal particle)